

会員だより

小94期 衆議院議員 中山泰秀

冒頭、過日地球規模での異常気象の中で、台風による被害を、又、新潟県全域を襲った大地震の両被災者の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い回復を、心より祈念いたしております。

さて三碧木星の戌年生まれである私にとりまして、昨年は大変変化にとんだ年の始まりでありました。米国国務省から研修留学に招聘。妻、文との結婚。そして第43回衆議院選挙に出馬、初当選。娘、こころの誕生。お陰様でお世話になった先生方、先輩や後輩、そして同期の皆様のご支援のもと、このような結果を出させて頂く事が出来ました。紙面をお借りいたしまして、心から感謝・御礼を申し上げます。今後は、追手門学院山桜会会員第1号・初の国会議員として母校を誇りに思い、母校の名に恥じる事が無いよう、国家・国民のために頑張る所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。私が小学校に入学した当時は、林校長先生の時代でした。そして卒業の時は、浜守校長先生でした。林先生は、私が幼かったせいか、とても背が高く、近寄りたいたいとか何となく近付いてはいけない、近づくと怒られそうな雰囲気、緊張感がはしたような気がした事を覚えてます。浜守校長先生の時、引き続き【校長先生】という私なりのイメージがあり、常に緊張感を持ちながら接しさせて頂いていた気がします。ましてや、校長先生という存在は、いつも校長室にいらっしゃる、学校の中の帝といったもので、見てはいけない(けど見ちゃう、ちょっと大げさかも...)存在のような気がしておりましたので、その校長先生が教鞭をとって下さるとは夢にも思いませんでした。そうです。ある意味【校長先生】という存在に対するイメージが変化しました。浜守先生は、私たちに直接指導をして下さっていました。ものすごい緊張感が、良い意味で適度な緊張感へと変わったのもちようどその頃だったような気がします。しかしその浜守先生も、今は帰らぬ人となられてしまいました(まだ何処かで元気でいらっしゃるような気がします)。西区白髪橋近くにあるお寺でのご葬儀に参列させて頂いた事を、つい昨日の事のように思い出します。34になり、一児のパパになって本当に今まで育ててくれた親の有難味や、人間が成長していく中で大切な【教育】、中でも一番大切な小学校の教育を追手門学院の生徒として受けさせて頂けた事に先生方や同窓生の皆様に、本当に感謝の念を抱ける現在の自分自身がいます。【教学徳育】の両端をとって出来た【教育】という言葉通り、追手門学院小学校においては、まさにその言葉に最も近い理想的な学校であったかと思います。昨今の学校教育現場を歌に例えると...『めだかの学校は、川の中〜』誰が生徒か先生か?誰が生徒か先生か?みんなでお遊戯しているよ〜♪』だと思



ますが、追手門学院小学校は、特に私達も含めて先輩の方がもっとそうであったかと思いますが、同じく歌に例えますと...『すずめの学校の先生は〜♪、鞭を振り振りチーパッパ、チーチーパッパチーパッパ♪』ではなかったかと思います。今時、鞭を振り振りしたら、保護者の方から苦情が出て先生や学校側の問題になってしまいます。卒業してから公立中学校に進学しましたが、私が卒業後、学校訪問した時、当時良く叱って下さった先生方は全員【暴力教師】として、お辞めになられておられました。理由があって、物事の善悪を鑑み、教育者として叱った方が生徒本人のためになるという場合であっても否定をされてしまう昨今、家庭の教育【愛の鞭】がますます大切になって来ていると思います。【年毎に咲くや吉野の桜花、樹を切りてみよ花の在処は。】一休さんが詠まれたが如く、日本中に心の花が立派に咲き乱れますよう、心から念ずる次第であります。